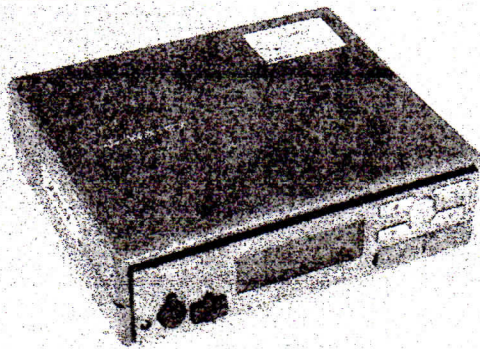




デジタルタコグラフ「XDT-1」

デジタコを開発

運行管理ソフト添付

初年度1万台の販売目指す

ワーテックス

ドライブレコーダーや衝突警報装置等の開発・製造・販売を行うワーテックス(太田市強戸町162-13、安俊典社長、0276-5533738)はこのほど、デジタルタコグラフ「XDT-1」を開発、販売を開始した。運行管理ソフトを標準添付している点などが特徴で初年度1万台の販売を目指している。

国交省が事業用トラックへの「デジタコの全車両装着の義務拡大」を進める中、現行の車両総重量8t以上、最大積重量5t以上から、総重量7

t以上、積重量4tに義務化を拡大、15年4月には新車購入に適用、16年4月以降、その他の車両(使用過程車など)への適用が決まった。

これを受け、トラック運送業界向け製品開発を手掛ける同社がユーザーニーズにこたえ、法定3要素(時間・距離・速度)を満たす低価格デジタルタコグラフを開発。運行管理ソフトを標準添付した初期導入のしやすさが売り。

車速信号から取得するデータに加え、GPSからの位置情報などをSD

カードに保存。事務所の解析ソフトで日報出力や運転レポートなどを出力するほか、走行軌跡などのツールとしても活用する。

今後、ドライブレコーダーやアルコールチェッカーなどと連携し、事故削減と安全運転に役立てたい考え。

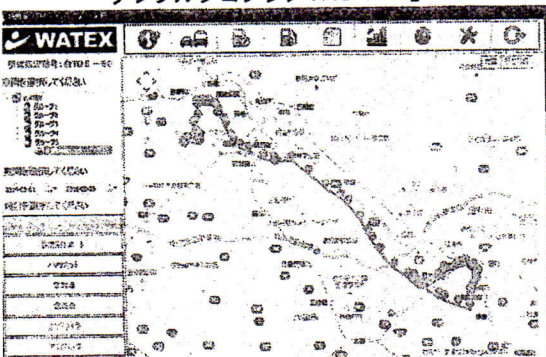
販売価格は5万5000円(税別、取付工賃別)。オプションで荷積み、荷卸し、休憩などの業務状態や積載量を入力できるリモコンを用意している。販売は商社を通じて行

る。(中野博之)

る。今後、ドライブレコーダーやアルコールチェッカーなどと連携し、事故削減と安全運転に役立てたい考え。

初年度目標は1万台。同社では、「ノウハウを生かし、利用者ソフトを添付するなど、低価格リリースを実現したい。導入の検討をしてほしい。今後も、地域社会に根差した企業として成長するとともに、環境や安全に配慮した製品作りを取り組む」と話している。

初年度目標は1万台。同社では、「ノウハウを生かし、利用者ソフトを添付するなど、低価格リリースを実現したい。導入の検討をしてほしい。今後も、地域社会に根差した企業として成長するとともに、環境や安全に配慮した製品作りを取り組む」と話している。



標準添付の運行管理ソフト